

地域密着型サービス評価の自己評価グループホームやまゆりの家

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>		
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	○	ご本人・ご家族へアセスメントを行い「その人らしい」生活の援助を考えています。今後も、より密に関わる事で情報の収集をしケアプランの作成にも活かしたいと考えております。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	○	平成21年度も運営推進会議は年4回を計画しており、施設の現状や介護の実態・理念を伝え理解をいただく予定です。
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	○	地域の茶道教授が、定期的にボランティアでお茶会を開いて下さっている。平成21年度には地域の大正琴愛好会さまのボランティアを予定しています。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	○	今後は参加するだけでなく、積極的に準備や片付けにも協力していきたいと思います。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	施設訪問会の際に、介護相談や施設見学はいつでも対応させていただき旨を伝え、コミュニケーションをとっています。	○	専門性の高い人材育成のために、各種の研修参加と資格取得を目標に勉強会を行います。(20年度介護福祉士合格者1名)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	評価結果は、全体会議で知らせ、運営者・管理者・職員のすべてが共有しています。改善点を話し合い今後の運営と介護に活かしています。		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	運営推進会議(年4回定期開催)では、半年ごとに施設の現状報告を行い、現状での問題点や改善案を話し合い地域の方々の意見を参考にサービスの見直し・向上に努めています。	○	運営推進会議のメンバーに地域の消防関係者の方を加え、防災面の意見をいただく予定です。
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	入居者の異動時には随時、書面にて情報の提供をしています。制度改正や、研修関係についてはその都度相談に伺っています。	○	今後も指定市町村様と連絡をとり、連携した運営を行いたいと思います。
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	群馬県の研修に参加して学ぶ機会を設けています。		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	虐待については、全体会議や毎日の申し送りで話し合いをしています。小さな気付きでもヒヤリハット記録に残すようにして、福祉理念に添った介護が出来ているか各自が意識を高めるようにしています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前にご家族・ご本人に施設見学をしていただいて、質問や疑問点を伺っています。こちらからの説明には十分な時間をとり、ご理解を得た上で契約させていただきます。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご本人・ご家族からの 普段の会話の中から改善のヒントになる情報は無いか、不満に感じていることは無いかなど注意してコミュニケーションをとるようにしています。運営推進会議のメンバーさんが入居されている方々と話す機会をもうけ、話しやすい環境づくりに努めています。	○ ご利用者の意見や不満・苦情に関しては、当事業所独自の苦情処理規定を設け、職員には周知・徹底しています。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月発行する請求書・領収書を郵送する際に、行事写真を同封し暮らしぶりを書き添えています。ケアプランの見直しは3ヶ月ごとに行い、その都度ご家族ご本人とカンファレンスを行い情報の共有に努めています。またご本人の状態の変化に伴って、ご家族と連絡を取り合っています。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	公的窓口の紹介は重要事項説明書の中に記載し、入居時に口頭で説明しています。また管理者は、気軽になんでも相談できる関係作りに努めています。	○ 運営推進会議へご家族が気軽に参加できるように、働きかけていきたいと思えます。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	経営者参加の定例会議を月に一度行い、各職員に意見や提案を発言する機会を設けています。	○ 会議の場で発言しづらい内容は、今後文書による提出も検討したいと思えます。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	必要な時に必要な人員を確保できるよう勤務ローテーションを考え勤務表を作成しています。ユニット間の兼務職員を4名配置し、柔軟な対応をしています。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	近況を振り返れば、職員さんの退職者は無く人事異動も最小限でした。ご利用者の居室異動をせずに馴染みの環境で馴染みの職員・管理者が支援出来ました。	○ 今後も同様の配慮を継続します。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	高齢者介護総合センターやグループホーム連絡協議会・群馬県等が行う研修に、中堅職員・計画作成者・管理者を中心に参加しています。資格取得のために施設としてフォローアップしています。	○ 今後も、段階に応じた能力の底上げと資格取得のための勉強会を行います。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会が行うレベルアップ研修へ職員を派遣し、施設間の交流に努めています。	○ 今後は、レベルアップ研修の受け入れ体制を整える予定です。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	親睦会や食事会・社員旅行を企画・開催し職員の関係性を高め、お互いが理解を深められる機会を作っています。	○ 職員が不安や不満を相談できる窓口や環境づくりをおこなっています。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	経営者が週に2日は施設に来て、職員とコミュニケーションをとり状況の把握に努めています。いつでも相談できるように、日々の連絡先・所在が明らかになっています。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご利用相談の際には十分な時間をとり、必要であればご自宅や入院先へ出向き相談を受けています。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居の相談に限らず、在宅生活上の相談や退院時の相談にも応じています。施設見学は随時受け付けており、他施設の紹介も必要があればしています。	○ 今後もソフトな対応と開かれた施設として、いつでも見学していただける体制作りに努めます。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	近況の1年を振り返れば、満床状態が多かったため、入居を急いでいる方には他グループホームの紹介や申し込みをお勧めしました。在宅サービスの紹介や介護保険の申請方法の説明もしました。	○	地域の方を対象に行った施設訪問会では、介護支援専門員が介護相談を行っている旨をお伝えし、気軽に立ち寄れる場所にしたいと考えています。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居を希望される方には、いつでも見学を兼ねて施設を体感していただき、必要があれば併設のデイサービスを利用しながら環境に馴染んでいただいています。入居後にはご家族との外出や外泊も自由に出来るように事前に説明しています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	炊事・洗濯・掃除等を一緒に行い、職員も生活を共有することで関係性を深めています。昼食も一緒に会話しながら食べています。得意なこと(お裁縫・折り紙)は、お互いに教えあつてコミュニケーションをとっています。	○	平成21年度は行事計画を立て、季節感のある生活を共に送れるように考えています。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会やご家族との外出・外泊はいつでも自由に出来るように援助しています。施設でのご本人の様子を毎月 写真と共に お伝えし、介護の方針や意向をこまめに確認し合っています。	○	行事等はご家族にも参加して楽しめるように、日時・内容を工夫します。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	さしさわり無ければ入居前から家族暦の確認をさせていただいています。ご家族からの情報は記録に残し、職員間で共有し、今までの人間関係を保てるように援助しています。受診等はご家族にも付き添って頂き、お体の状態を一緒に理解していただいています。	○	面会は比較的多く、ご本人とご家族の関係は良好に保たれている方が多いです。遠方のご家族とは手紙等を使って連絡をとり、良好な関係を継続させる援助をします。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前の友人宅へ職員が送迎しお茶を楽しんでいただいたり、近所に住んでいた顔見知りの方に面会に来ていただくように職員が連絡をとったり、なじみの関係が途絶えないように援助しています。	○	ご本人の希望やしたいことの確認をしっかりおこないます。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	共有のスペースが心地よく過ごせるように、環境整備に努めています。食事やお茶の時間は食堂ホールに全員が集まる様にし、和やかな時間を提供しています。	○	現状では人間関係のトラブル等は少なく、職員が早期に対応することで良い結果がでています。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居後に在宅へ戻られた方には、併設のデイサービスを利用していただきながら継続的に相談援助を行っています。入院をきっかけに退居された方には、退院後のサービス利用の相談や、介護の再認定相談・他施設の紹介もおこなっています。	○	退居後も気軽に施設へ立ち寄れるように配慮し、相談はいつでもしていただきたい旨を伝えています。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的なアセスメントのほかに、カンファレンスを通してご本人・ご家族の意向を確認している。時間やきまりに縛られないその人らしい生活を援助しています。	○	コミュニケーションを大切に、傾聴に努めます。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前と入居時にご家族・ご本人と面接を行い、十分に時間をかけてアセスメントを行っています。以前利用されたサービス事業者さまや担当のケアマネさんから情報をもらい、出来る限りカンファレンスの時間を設けています。面会の際にも、情報収集に努めています。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ADL・精神面・認知面の変化に気を配り、情報は毎日の申し送りでご職員が共有し、月に1度の全体会議でカンファレンスをおこなっています。	○	施設の特性を生かしたアセスメントの形式を検討しています。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画の作成には、ご本人の意向を一番に伺い プランへ反映する様にしています。ご家族とは常に連絡を取り合いその時々課題についてご意見をいただいています。ご本人のなじみの事についてお伺いし、プランの中に反映させています。	○	信頼関係の構築に努めます。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月毎の見直しをし、6ヶ月を目安に再アセスメントをしご家族に確認していただいています。期間に関係なくご本人の状態が変われば、必要に応じて ご家族と福祉用具の検討や介護の方法・受診の必要性等を話し合っています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ケース記録と業務日誌へ毎日の生活記録をしています。受診の結果や体調の変化は申し送りノートへ記録しています。双方の記録は毎日共有し、月に一度のカンファレンスで介護検討を行っています。	○	モニタリングノートを活用しています。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご本人・ご家族のご要望は、良く傾聴し 事業所として出来ることの検討をおこなっています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の行事等は、班長さんや民生委員さんを通じてお知らせがあり、近隣の方や高校生ボランティアさんの協力をいただき参加しています。地域の消防・警察の方には、防災や防犯についてのご指導をいただき、協力をお願いしています。	○	平成21年には地域の方や消防関係の方に働きかけて、防災訓練を検討しています。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて 他サービスと連絡調整をし、話し合いをおこなっています。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターさんと必要な情報交換をおこなっています。	○	困難事例等は地域包括支援センターさんへ相談し、本人本位の支援に努めます。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診はご本人・ご家族の意向を一番に決めていただき、以前からのかかりつけ医に継続してかかるように援助しています。ご家族の都合等で主治医を変更する際には、情報提供書を作成し、ご家族と医療機関へお渡ししている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	全体会議で、処遇について話し合い より良い対応を検討しています。個人情報事務所で取り扱い、施設外に持ち出す際には、ご家族に了承をいただいています。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	ご本人の意向は充分傾聴し、生活時間はスケジュールにとらわれずに自己決定を尊重したケアに努めています。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間以外は、お一人お一人の自由にまかせ、外出・入浴等の援助は希望があれば、その都度対応できるようにしています。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	その日に着たい服や身に着きたいものは、ご本人に決めていただいています。散髪サービスは、2ヶ月に1度近所の床屋さんに来ていただいて、好きなヘアスタイルを伺って対応しています。理美容等は自由ですが、ほとんどの方が施設での散髪サービスを気に入られて利用されています。	○ 特に女性には、おしゃれを楽しんでいただくように援助しています。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月に一度の全体会議では、食事のモニタリング結果や新しいメニューの検討をおこなっています。昼食はみんなで一緒に準備・片付けをし、にぎやかに食べています。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのお酒、飲み物、おやつ、たばこ等を一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	嗜好品は入居前に事前調査で伺っています。また日々のコミュニケーションの中で確認し、食事やおやつの中にとりいれています。現状では、飲酒や喫煙は医師の指導であったり、ご家族が希望されなかったりで楽しまれている方は降りませんが、喫煙場所は確保しています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄のアセスメントをし、トイレへのご案内は、定時のほかにも個別排泄パターンに合わせた援助をしています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週間予定で入浴日はおおよそ決めていますが、ご本人の体調や意向に合わせて日時は柔軟に変更しています。	○	高齢化・重度化によって入浴が負担になってきている方が多くなっている為、今後は入浴の回数よりも内容の充実(楽しみとしての入浴)を検討していきたいと思います。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	安眠の為の環境(温度・湿度・音)づくりに配慮しています。消灯時間は決まっていますが、眠れない方には個別援助しています。日常的な不眠は主治医に相談し、ご本人の負担が軽減するように努めています。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居前の事前調査で生活歴や得意なことをご家族・ご本人から伺い ケアプランの中でご本人が意欲的に生活できる援助を掲げている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現状では、ご自身で金銭管理を希望される方はおりません。施設では預かり金(お小遣い)は しないこととなっていますが、ご本人が必要であれば 施設が立て替えて買い物や支払いをして、楽しんでいただいています。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	中庭では家庭農園やガーデニングはいつでも出来るようにし、めだかや金魚を育てています。歩くことが不自由な方にもドライブ等で外出していただいています。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	2ヶ月に一度は小旅行をおこない、ドライブ等の外出は 希望があればその都度対応しています。地域の行事にはご家族にも声を掛けさせていただき、一緒に出掛けたい旨をお伝えしています。結婚式の参列の付き添いを頼まれた事もありました。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所の電話は、希望があればその都度自由に使っています。ご自分で電話が出来ない方には、職員が代わって用件をお伝えする支援をしています。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	入居時に 面会時間は自由な旨を説明しています。面会にこられた方にはご本人の近況をお伝えし、ゆっくりと過ごせるように居室へご案内しています。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月に一度の全体会議で、具体例をあげて、身体拘束しないケアについて話し合っています。	○	研修や勉強会に積極的に参加します。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室の施錠は一切行っていません。玄関はセンサーチャイムを取り付けて、出来る限り施錠しないようにしています。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は入居されている方と同じ空間で記録をしたり、その方にあつた声かけを時間毎におこない さりげなく安否の確認をおこなっています。夜間は数時間毎に巡視を行い安否確認をおこなっています。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	裁縫をしたい方には、職員と一緒にこないその都度裁縫道具の管理をしています。台所用品や洗剤類の管理は過剰にならないように、その時々状況把握に努めています。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	毎月1回 防災訓練をおこなっています。行方不明については、運営推進会議で地域の方に協力をお願いしたり、地域の警察署と緊急時の打ち合わせをしています。個人のリスクを共有し 救急要請時はマニュアルを作成し、迅速に対応できるように日頃から申し合わせています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急要請マニュアル・防災マニュアルを基に毎月1回の防災訓練をおこなっています。研修に参加しています。	○	今後も、段階に応じた能力の底上げに勉強会を行います。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎月1回の防災訓練をおこなっています。運営推進会議では地元の消防関係者や区長さん・班長さんに協力をいただき助言をいただいています。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	退院時やご本人の状態の変化があったときには、医療からの情報を基にご家族・ご本人と話し合いをおこない、望まれる介護に付随するリスクについてもお伝えしています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝 バイタルチェックをおこない、お一人お一人の体調を確認させていただき、異変があれば すぐにご家族へお伝えし相談しています。受診が必要であれば出来る限りのお手伝いをさせていただいています。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書はファイルリングして、いつでも確認が出来るようにし、薬の知識を得られるようにしています。処方の内容が変わった時には申し送りノートへ明記し、すべての職員が周知するようにしています。	○	地域の調剤薬局さまに、薬の説明やジェネリック取り扱いのご指導を頂き 利用される方へお伝えしています。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄のチェックをおこない、排泄パターンを把握するようにしています。便秘時には医師へ相談し指導していただいている。食事は、食物繊維が多く含まれる食材や乳製品をメニューへ入れるようにし、散歩や軽い運動を一緒にし、自然排便できるように取り組んでいる。	○	ケアプランで具体的な便秘対策をあげ、共有しています。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後に声かけをおこない、自分で出来る方には歯磨きをしていただき、介助が必要な方には、洗面台まで一緒に行き口腔衛生をおこなっています。就寝前は義歯をお預かりして洗浄しています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は個人別お食事一覧表を確認し、疾病に応じた摂取量や水分量を把握しています。食事の摂取量を 主食・副食・汁物毎に毎回個別チェックし、記録し、データーとしていつでも閲覧できるようになっておりカンファレンス時に検討する資料にしたり、必要があれば ご家族・主治医にお渡ししています。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症の研修等を基に、取り決めを作り、早期発見・早期対応につとめています。インフルエンザの予防接種は入居されている方には同意をいただき、職員共に受けています。手洗いの方法・汚物の処理方法は随時検討し対応方法を変えています。		
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	包丁・まな板・食器等は一度手洗いをし、その後食器洗浄機にかけ2度洗いをしています。調理器具や布巾は随時 塩素漂白をおこなっています。食品は、ほぼ毎日業者さんに新鮮な食材を届けてもらって、買いだめをしないようにしています。	○	地域の方に頂いた、新鮮な野菜を調理に使わせていただいています。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	入口にはホームの表札を掲げ、玄関周りには植物を植えたり、鉢植えを置いています。 玄関は大きなガラスの扉になっており、施設の中で調理する姿が見え家庭的な雰囲気づくりを心掛けています。	○	敷地内の一角をごみ収集場所として、地域の方々に自由に使っていただいています。
81 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内は一般家庭で使用する家具や調度品を置き生活感のある環境作りに努めています。心地よく休めるようにベンチやソファの配置を考えています。施設は自然に恵まれた環境に立地しているので、外の景色が見えるように配慮しています。中庭には植物を植え、季節感をだしています。		
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルやソファの配置を入居されている方々の生活スタイルに合わせて配置しています。一人が好きな方には小さなテーブルを用意しています。なじみのお品が見えるように配慮しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、なじみの家具や品物をお持ちいただくように説明しています。家族写真を居室に飾ったり、女性らしい調度品を置いている方がいらっしゃいます。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	天候の良い日には、リビング・廊下・居室の窓を開けて空気の入換えをおこなっています。コミュニケーションをとりながら、室温・湿度の調整をしています。排泄後には消臭スプレー等を使用し、配慮しています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリー・手すりの設置・床材の工夫(クッション加工)・ナースコール完備(各居室・トイレ・浴室)・洗面台の角度調整がされています。その他、必要がある方には福祉用具の紹介をして安全な生活援助に努めています。	○	福祉用具の紹介をする際には、良く話し合い カタログや実物をみていただき検討しています。必要があれば福祉用具専門相談員に同席してもらっています。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各居室のフロア一色を変えています。居室の入口には個人名のほかに、お写真やその人らしい飾り付けをさせていただいています。共用部では「べんじょ」「ふろ」と、わかり易い大きな文字表示をしています。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	敷地内には中庭があり、家庭菜園やガーデニングをしたり、めだかや金魚の飼育をしています。手入れや飼育の方法等は入居されている方にご指導していただき、意欲的に生活しています。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

やまゆりの家は、入居されている方やそのご家族にとって やすらぎの場であり家庭であることを願い、温かな介護・援助を心がけています。職員14名すべてが有資格者で、その中の7名は介護福祉士です。